

表紙のことば

写真と文：大塚雅貴

山形県（JA山形おきたま）

「かわいそうで、食べられない」。都心に暮らす知人に食用菊を送ると、それが最初に返ってきた言葉でした。鮮やかな黄色や淡い紫色、直径5～6cmほどの花びら。手の上にのせると、風で飛んでいってしまいそうな可憐な花。「湯に酢を少々入れてゆがき、しょうゆで食べてごらん」と、調理方法を伝えると、「おいしかった」との声が届きました。



そう話すのは山形県米沢市で食用菊を栽培する本間雄昇さん（80）・しげさん（79）夫妻。4月に挿し芽をして苗を育て、収穫は7月末から始まり、11月中旬まで続きます。袋状の花びらが特徴で、中でも「もってのほか」は山形が誇る大輪種。紫色の「紅もって」や鮮やかな黄色の「黄もって」などがあります。由来は、もってのほかおいしいからだとか。甘味があって、シャキシャキした食感。食卓に並ぶと秋の訪れを感じるそうです。「大きな花が咲いたときはうれしいねえ～」と、しげさん。

「朝10度以下になるとおいしくなります」と、話すのは30年ほど前から食用菊を栽培する片平



孝さん（68）・恵子さん（68）夫妻。2aほどの広さに「紅もって」と「黄もって」を栽培。「寒くなると色も濃くなり、おいしさも増します」。午後に収穫し、翌朝4時からパック詰め。近くの直売所「米沢南愛菜館」には、県内外からお客さまが来店し、昼には売り切れてしまうそうです。

「とにかく一度食べてほしい」と、片平さん夫妻は話します。

食・農・地域のくらしを支えるJAの存在意義や取り組みを紹介するJAグループ共通コンテンツ（JA新聞連『JA広報通信』にて提供中）。今年度は、「協同組合

とは何か」をテーマに毎月Q&A方式で解説します。JA広報誌への掲載等により、組合員や地域住民への情報提供資料として、ぜひご活用ください。

JAグループ
共通コンテンツ

知って納得JA —協同組合の力—

Q 協同組合の組合員組織って何？

A 目的を同じにする組合員が集まって活動することで、願いを実現するための組織です。

JAには、さまざまな組合員組織があります。住んでいる地域ごとの「集落組織」、トマトやキュウリなど品目ごとに生産者が集う「作目別部会」、農業を担う青年たちで構成する「青年組織（JA青年部）」、くらしを豊かにする「JA女性組織」、年金や共済などのJA事業を利用する組合員の交流を目的とする「事業機能別組織」などです。

JAは思いや願い（課題やニーズ）を共有する組合員が集まってつくる協同組合ですが、組合員はそれぞれ性別や年齢などが異なり、思いや願いもさまざまです。そのため、組合員の中で思いや願いが近い人々が集まって組合員組織をつくっています。

組合員組織は、JAの事業と運動の中心的な役割を果たしています。（監修＝広島大学 助教 小林元）

主な組合員組織の種類

集落による組織 	地域ごとに組織された地縁的な組織です。 農家組合や農事実行組合等、さまざまな名称で呼ばれています。集落単位の共同体が、ほぼそのままJAの組合員の基礎的な組織になっています。
作目別生産者による組織 	農作物の種類ごとに、その生産者が結集する組織です。 地域によって異なりますが、稲作、野菜、果樹、花き、養豚、酪農等の作目ごとに部会があり、生産・販売、技術の向上に取り組んでいます。
青年・女性による組織 	青年、女性の組織です。 農業を担う青年たちで組織するJA青年部および、農業の担い手としてだけでなく、生活においても多くの役割を果たしている女性たちで組織するJA女性組織です。
事業利用者による組織 	JAの事業を利用する人たちの交流を目的とした組織です。 健康・福祉など生活に関する事業を利用する人を対象にした生活班のほか、年金友の会、共済友の会等があります。

耕そう、大地と地域のまらひ。